

# 地震・雷・火事・親父 (ニュースレターのタイトルです)



## ハイライト

- 9月19日(水)メンテナンスを行います。
- LINE連携@連絡革命を発売しましたが●●
- CSV取込を変更しました。



まだまだ暑いが続きます。日頃より弊社サービスをご利用頂き、ほんとうにありがとうございます。不定期便ですが、「火災一斉メール」や「見まもりビーコン」のご利用者様に便利な使用法や弊社での出来事などお伝えしたく、ニュースレターをお送りさせて頂きました。

## ● 9月19日(水)メンテナンスを行います。

延び延びになっていましたNTT契約変更に伴うメンテナンス日程が決まりましたのでお知らせします。

**2018年9月19日(水) 13時から3時間**

**「火災一斉メール」と「見まもりビーコン」の全システムが停止**します。当社だけのメンテナンスだけですとっと短時間で終了しますが、今回はNTTさんとの共同メンテナンスになり長時間機能停止となり誠に申し訳ありません。

消防訓練や防災訓練の計画などありましたらご留意下さい。

## ● LINE連携@連絡革命を発売しましたが●●。

職員数が、20名から多くて30名までのグループホームや有料老人ホーム様向けのサービスとして「グループホーム@連絡革命」のサービスを6月より開始させて頂いておりましたが、この度「LINE連携@連絡革命」(以下:連絡革命)を、「火災一斉メール」のオプション機能として発売させて頂きました。

LINEには有料の商業利用目的にしたサービス「LINE WORKS」(ワークス)があ

ります。しかし月額使用料が職員一人あたり平均500円程度発生し、施設全体では高額な年間利用料となります。今回の試みは、LINEを無料で使用できる「LINEグループトーク」の活用です。グループトークを使用するものの緊急連絡専用とし、通常連絡には使用しない究極の方法をご提案するものです。リーフレットを同封させて頂きました。

特徴は、

●ご利用施設様にてグループ名「〇〇苑緊急連絡専用」などのLINEグループトークを作成いただく必要があります。

●上記LINEグループトークには、職員499名まで参加可能です。

●上記LINEグループトークは、**緊急時のみに使用し通常連絡には使用しない運用**を行っていただきます。

●火災通報装置との連動で、自施設の火災情報を職員へLINE配信できます。

●スマホの「緊急パネル」から緊急連絡を職員へLINE配信できます。

●「緊急連絡メール」配信と同時にLINEへも配信できます。

●「火災一斉メール」本体操作は、今までと同じです。メール登録職員にはメールが、メール登録とLINE登録の職員にはメールとLINEの両方が配信されます。

●LINEの便利さはご存じの通りで、緊急時に多くの情報を各職員が発信し、情報として共有することができます。

ところが欠点として

- ガラケー使用者が参加できない。
- 職員から情報発信された場合、個人名が特定できない場合が多い。
- グループに参加すると、個別トークが可能になる欠点がある。(これが最大の欠点)
- グループトークには個別既読確認機能がない。
- ニックネームなどの登録ではグループ参加者を把握しにくい。
- 職員の自主判断でグループトークからの退出が可能。
- オプション使用料として、初期登録料 8800 円 (税別、初回のみ) と月額使用料 1750 円 (税別) が必要。

などがあげられます。

このように、長所と多くの欠点がありますので、十分ご検討いただいた上ご導入下さい。興味がありましたら詳しい資料をご請求下さい、無料でお送りさせていただきます。

### ● CSV取込を変更しました。

職員異動などでメール送信先を一度に編集したい場合などによくお使いいただくのが「CSV取込」です。ご利用者様からのご提案で7月にプログラム修正を行いもっと便利になりましたのでご案内いたします。

**変更前は、**

既に入力されている既存メール送信先と、取込メール送信先を比較し、未入力送信先だけを追加。

**修正後は、**

既存のメール送信先は編集内容が上書きされ、未入力メール送信先はメール送信先一覧に追加されるように変更いたしましたので編集がとても楽になりました。

変更後の最新取説を、

管理画面の下部に

01 取説と運用までの流れ

統括管理者用 Ver4.11-KT (PDF)

としてアップさせていただきました。

その中の第1章「1-8 CSV取込」がご参考に

なると思います。是非お試下さい。

今回も最後までお目通し頂き、ありがとうございました。心地よい秋風はまだまだ先のようです。皆様方のご活躍を心からお祈りいたします。

文章作成・お問い合わせ先

担当者 加藤初徳 (はつり) でした。